

## 第 9 回中心部震災メモリアル拠点検討委員会における主な意見

### 「本報告にあたって」について

- ・本拠点が東日本大震災はもとより、これから起きる地震、津波、洪水、感染症など、様々な災禍を視野に入れて災害文化をつくらうとしていること、また、昭和三陸津波の数年後に第二次世界大戦が起きたように、新たな出来事が直前に起きた災害の記憶を風化させる契機になったという教訓から、**新型コロナウイルスについても言及**した方が良い。
- ・検討委員会として、**1 日も早い拠点の設置を求めることを記載**した方が良い。

### 「1 (1) 東日本大震災の概要」について

- ・私たちが文明とどう向き合うのかを問われたうえで、災害文化とは何かと考えるのであれば、福島第一原発だけではなく、**沿岸部にある他の原発についても記載**した方が良い。
- ・被害の数字については、**仙台のみならず、東北全体も記載**した方が良い。
- ・本項目は仙台市の震災メモリアル拠点を検討する前提として、震災の概要を記載するものであり、**東北の被害や原発事故の全てを詳細に記載する必要はない**。

### 「2 (2) 本拠点の基本的な理念」について

- ・掲載箇所によりハザードとディザスターの記載内容が異なることから、**整理**した方が良い。

### 「3 本拠点の役割」について

- ・拠点を媒介として災害文化を不断に創出する取組みが必要であり、その具体例として**仙台オリジナルのプラーク（銘板）づくり**を入れてはどうか。
- ・植田委員提出資料のうち、「恒常的な実践」を「(2) 仙台を超えた記憶の継承」に、「不断の創出」を「(3) 新たな知恵の創造と社会への実装」に追加した方が良い。
- ・市民だけではなく、企業、学校、行政も自らが関係することだと意識出来るように、**企業という言葉を追加**した方が良い。
- ・全てを自分でやるのではなく、**多様な主体が記録してきたものを共有し、生かしていくための活動を展開することも記載**した方が良い。

### 「4 本拠点の役割を果たすための仕組み」について

- ・「本拠点の役割」と「仕組み」の章について、**重複感が出ないように記載内容を整理**した方が良い。
- ・震災のことを見て辛い思いをする人がいる中、**本拠点には震災経験の個人差を乗り越えるレイヤーが必要**。

#### 「4 本拠点の役割を果たすための仕組み」の比喩（メタファ）について

- ・今回の議論をしっかりと表現するために、一番根気のいる「継承」も加え、「記憶と創造の樹」を「記憶と継承と創造の樹」と記載した方が良い。
- ・「みんなの庭」の「みんな」という言葉には、優しさとともに、協力性を強いるような意味合いや自身が入っていないという排他性を感じさせる。また、複雑なものに向き合う覚悟と気迫が感じられない。
- ・「みんな」ではなく、一人ひとりの覚悟や生き方を問われるものとして「一人ひとり」、または、多様な主体・長い時間軸で開かれたものとして「誰でもいつでも」など別な表現で記載した方が良い。
- ・「みんなの庭」の「庭」は普段閉じられているイメージを持つことから、多くの人に長く伝えるという本拠点の趣旨を踏まえ、開かれて自由なイメージを持つ「広場」と記載した方が良い。
- ・実際に出来上がるものは「広場」だとしても、誰かが手をかけて状態を維持する意味を内包する「庭」と記載することで良い。
- ・「幹」の周りに木陰ができ、人が集まり活動するイメージを伝える上で、「庭」という概念が必ず要るものではない。

#### 「志賀委員提出の絵」について

- ・絵は、志賀委員が委員会の議論を通じて感じ取ったことを表現した作品であり、報告書の内容と無理にすり合わせようとせず、委員個人の作品という位置付けで紹介した方が良い。

#### 「5 本拠点の役割を担う主体」について

- ・主体という言葉では抽象的な印象を受けることから、「拠点の運営を支える組織」と明記した上で、「様々な主体との連携」と記載した方が良い。
- ・拠点の運営を支える組織には、近々の災害のことを生かしていく柔軟性と、これまでの蓄積を保存活用した上でさらに蓄積することが求められることを記載した方が良い。
- ・「仕事に専念出来る待遇」と「継続性を重視した人の配置」について、誤解が生じないように具体的に補足するなど表現を工夫した方が良い。
- ・震災の経験を発信するのみにとどまらず、新しい社会のあり方となるモデルを考え、世界に向けて発信していくような活動を展開するために、仙台に以前あった都市総研のような取組みを念頭に主体のあり方を考え、報告書に記載した方が良い。

#### 「7 今後の検討における留意事項」について

- ・本拠点の核となる機能が何か、機能分担をどこまで許容するのかを考えた上で、連携のあり方を議論した方が良い。機能分担したからには受け持つ人が責任をもってやるべきだが、その担保を考えると、簡単に機能を削るべきではない。
- ・様々な施設の計画がある中において、それらとの一体的整備や統合的配置のようなことが検討に値する旨を記載した方が良い。
- ・ハードウェア整備だけが、本報告の趣旨を実現するための手立てではない。最初に必要なのは、東日本大震災での経験と向き合いつつ、災害とともに生きる文化を考え、世界に発信していく人の力であり、施設を持つよりも、出来る活動から始めつつ、活動を通じて拠点の方向性をさらに考えていく体制を整えることを最優先した方が良い。